



学校だより

R6年度
No. 1



令和6年7月19日
福島県立だて支援学校

校長あいさつ

校長 本田 知史

だて支援学校は3年目を迎えます。高等部卒業生1期生、2期生合わせて17名は、伊達地域において、本校で学んだことを生かして自分らしく地域の一員として過ごしていることと思います。創立の年一昨年度は400人、昨年度は360人を超える見学者、内覧者の方々がお見えになりました。施設の素晴らしさ、きれいさばかりでなく、そこで元気に笑顔で学ぶ児童生徒や、かかわる教職員についてもお褒めの言葉をたくさんいただきました。

さて、令和6年度は小学部10名、中学部13名、高等部13名の新生を迎え、小学部17学級・44名、中学部8学級・30名、高等部9学級・37名、計34学級・111名の児童生徒の在籍になります。一人一人の良さを認め合い、一人一人の夢の実現のために教職員一丸となって、保護者さん、関係機関の皆様と連携しながら、最大限の力を尽くしてまいります。

始業式、入学式では児童生徒にこのような話をしました。

「だて支援学校の学校目標を伝えます。三つあります。頑張っておぼえてください。一つ目「自ら学び、自ら考え、行動する人」、二つ目「相手を思いやり、協力し合える人」、三つ目「健康な心と体を育む人」です。さて、隣の人をみてください。大切な仲間、友達です。特に今年度は相手を思いやり協力していろいろなことに挑戦してほしいと思います。難しいですか？ できそうですか？ 校長先生はみなさんならできると思います。先生方が本気で応援します。」

今年度は学校経営運営ビジョンに、高等部生徒会役員が児童生徒の意見を踏まえて策定した、【児童生徒の願い】として「みんなが自らあいさつできる 明るい学校」を加えました。令和6年度も、本校に関わる全ての方々のご期待に応えられますよう、また「地域と共にある学校」となるよう、教職員一同、子どもたちと本気で遊んで、本気で学んで参ります。

小学部より

6月21日(金)大田小学校の5年生児童が来校し、本校の小学部3~5年生児童と交流及び共同学習を行いました。グループ毎に自己紹介をした後、学校探検を行い、最後は全員で手話を交えて「虹」を歌いました。一緒に時間を過ごす中で、自分から話しかけてやりとりしながら楽しく活動する様子が見られました。今後、2回実施予定です。「伊達地域で共に学び共に生きる」意識が深まっていくよう活動していきたいと思ひます。



情報教育部より

昨年度に引き続き、それぞれの学級で、お子さんの実態に応じて、学習効果・効率を上げる工夫がされており、ICT機器もその選択肢の一つとなっています。

例えば、書画カメラを利用して、ノートの取り方をモニターに映して提示したり、タブレットをそれぞれの児童生徒が持って校外学習に行き、テーマに沿ったものを自ら考えて写真などを撮ったりしています。

また、鉛筆や食器の正しい持ち方・使い方等の写真・絵・動画を見たり、プレゼンテーション資料等の同じ教材を見て認識を共有したりしながら学習しています。



研修部より

昨年度から引き続き、校内研究「資質・能力の育成に向き合う授業づくり～単元研究を通して授業づくりとカリキュラムの充実を図る～2年次」に取り組んでいます。学校経営・運営ビジョンの通り、子どもが分かる授業研究を進めるために月1回校内研修を行っています。単元の目標と、それを達成するための教材研究や手立て等についてグループで協議しています。

